



# 学校だより

日野南小学校ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hinominami/>



令和5年10月31日

11月号

横浜市立日野南小学校

## 『ONE TEAM』

副校長 白岩 敬之

ようやく秋らしい爽やかな風が吹き始めたこの10月は、アジア競技大会などスポーツの祭典が目白押しでした。私はその中でも4年に1度開催されるラグビーワールドカップの日本代表戦を食い入るように見ていました。ラグビー日本代表に外国人が多いことは一目瞭然でしたが、これは日本代表になる資格が他のスポーツと少し違うからです。ただ、日本人かどうかという議論は島国の日本だからこそその発想で、これだけ物事がボーダレス化している現代では、少なくとも陸つなりのヨーロッパや移民大国のアメリカのスポーツ界では、そういう話をあまり聞かないそうです。しかしながら、様々な国籍や文化、宗教をもつ選手が心をひとつにして戦うということは容易ではないでしょう。様々な個性、能力、体格をもつ選手たちが1つのチームをつくり、各々を生かしながら補い合い、勝利という目的に向かって『ONE TEAM』で戦う。そんな姿が多くの人に感動を与えたのでしよう。



さて、本校の子どもたちも先日行われた「運動会」でたくさんの感動を与えてくれました。学校は運動が得意な子ばかりではありません。しかし、お互いに切磋琢磨してゴールまで走りきる姿、ダンスで周りとりズムや隊列を合わせようとする姿、演技や競技だけでなく応援団として仲間を鼓舞する姿など、現時点での自分の精一杯の力や自分の得意を発揮する場面が多く見られました。特に、今年度の新しい試みとしての「高学年全員リレー」では、走順を工夫したり、スムーズなバトンパスができるように教え合ったりと練習の段階からチームで協力する姿が見られました。そして、競技が終わった時の子どもたちの表情からは、勝ち負けを乗り越えた達成感や充実感、一体感が伝わってきました。学級や学年、赤組白組それぞれの場面で気持ちをひとつにして『ONE TEAM』となり正々堂々と競い合いました。子どもたちは運動会の取組を通して、自分の長所を生かせることに気づき、短所やできないことを克服するだけでなく、「自分にしかできないことがあるんだ。」という他人と違う長所や自分の力を発揮できる場で全力を出し切り、チームのために貢献することの大切さを学びました。この経験は必ず今後活かされることでしょう。

制限がない運動会が久しぶりに開催され、無事に終えることができたのもまさしく日野南小に関わる皆様が『ONE TEAM』だったからこそと思っています。地域の方や保護者の皆様のご協力に心から感謝申し上げます。コロナ禍以降、運動会の内容も試行錯誤しながら変更を繰り返してきました。賛否両論あると思いますが、様々なご意見を真摯に受け止め、今後もよりよい運動会になるよう改善をしていきたいと思っています。今後も変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。